

今週のメニュー

[トピックス](#)

宮古島での樹脂サッシ・樹脂サイディング普及セミナーを終えて

樹脂サイディング普及促進委員会 一級建築士 高村 正彦

[随想](#)

オックスフォード便り（その4）

関東学院大学 織 朱實

[編集後記](#)

トピックス

宮古島での樹脂サッシ・樹脂サイディング普及セミナーを終えて

樹脂サイディング普及促進委員会 一級建築士 高村 正彦

1月28日、琉球大学の山田教授をメインゲストにお迎えして、宮古島公民館にてセミナーを開催しました。当メルマガでも[昨年8月発行の236号](#)にて紹介したので読者の皆様のご記憶にあるかもしれませんが、昨年7月から琉球大学の山田教授らにお願いし沖縄、北海道、千葉の3ヶ所で「塩ビサイディングによるコンクリートの保護効果」の検証のため暴露試験を開始したことがセミナー開催のきっかけとなりました。

沖縄における暴露試験場は沖縄本島の北の端に位置しており、昨年の試験体設置は夏の暑い盛りの中だったため、大変な思いをしました。

セミナー企画の発端となったのは、その時に一緒に苦労していただいた、地元の手澤セネコンの責任者の方との打合せで、9割がコンクリート住宅である沖縄では、厳しい塩害からコンクリートを保護することは重要なことで、塩ビサイディングがその役割を果たしてくれるのではないかと認識していただいたことが一つ重要な成果だったのではないかと伺ったことでした。そして、暴露試験を真っ先に取り上げ記事にしてくれた琉球新報をはじめ、セメント新聞・日刊建設工業新聞・コンクリート新聞などに次々と記事が掲載され、関心度が高かったこともありました。

このセミナーを企画すべく、先の沖縄の手澤セネコン責任者の方に相談すると2つ返事で快諾して頂き、会場の手配、人の手配や県や市・建築士会への案内、島民向け新聞広告等一切合財を引き受けてくれ、セミナー当日を迎えることができました。

ご承知の様に塩ビサイディングも塩ビサッシも北海道や東北などの寒冷地では多くの実績を残しているものの、ここ沖縄では実績はあるものの僅かで、知名度もほとんど無い状況でしたが、それぞれの講師は、今回のセミナー開催のきっかけとなった「塩害」を切り口に講演をすることを申し合せ臨みました。

[塩ビという素材の特長や耐久性の紹介](#)に始まり、[塩ビサッシの耐塩害や遮熱効果](#)、[塩ビ](#)

[サイディングの耐塩害、耐久性、耐風圧](#)といずれも沖縄の気候に則した内容で講演を行い、最後に[琉球大学の山田義智教授の「コンクリートの長寿命化と塩害」](#)の講演で締められました。

沖縄において琉球大学の名前は絶大な知名度があり、若くして教授となっておられる山田教授の講演はさすがにデータに基づいた説得力のあるお話で、すべての参加者が引き込まれるように聴講していたのが印象的でした。

また、冒頭でご紹介した「塩ビサイディングによるコンクリートの保護効果」の研究についても講演の中でご紹介頂き、「暴露試験はまだ始まったばかりだが、大いに結果を期待している。機会があれば是非皆さんに研究結果を紹介したいと思っている」とのお話があり大変勇気づけられました。

当日は生憎の雨模様で、セミナー参加者は最終的に25名ではありましたが、終了後に質問をされる方、展示サンプルを持ち帰られる方など、参加された方たちには興味を持って頂けたようでした。

また、参加者の中に宮古新報の記者の方がおられ、セミナー内容も含め翌日の宮古新報にセミナーの様子が記事として掲載され、専門家だけでなく一般の方々にもお伝えすることができたことも今回のセミナーを企画した私にとっては大変嬉しいことでありました。

余談となりますが、現在、世界における暴露試験の基準地域とされているのがアメリカ・フロリダにある暴露場なのですが、ここ宮古島はそのフロリダとだいたい同じ緯度に位置し、また同じように太陽光が強く、高温多湿という気象条件にあることから世界的にみても暴露場に適した環境にあり国のウェザリングテストセンターがあります。今回、宮古島を訪問した目的のもう一つはその見学でした。

暴露場は、宮古島の中に数ヶ所あるそうで、今回見せて頂いたのは一番広い暴露場でした。さすがに国の暴露場で、1000坪ほどの敷地には芝生が植えられ管理が行き届いており、暴露試験台も様々な角度がつけられ暴露される材料が実際に使用される条件と同じ条件で暴露が行われています。また、ちりを測定する機器や太陽の方向を追跡する装置等様々な装置が配備されています。

これまで寒冷地を中心に広報を行ってきた塩ビサイディングや塩ビサッシも、塩害という切り口から全国に展開することができれば飛躍的に需要を伸ばすことも可能であり、今回の宮古島セミナーがそのきっかけとなってくれればと考えています。(了)



宮古新報記事
[クリックで拡大](#)



暴露場

オックスフォード便り（その4）

関東学院大学 織 朱實

日本も寒波でとても寒いようですが、欧州もこの冬は大寒波が押し寄せ、英国だけでなくフランス、ドイツ、どこも大変な寒さでした（大雪での国際空港閉鎖が何か所もあり大騒ぎでした）。オックスフォードも例年なら「雪はほとんど降らない」はずが、今年は1月に交通機関もストップしてしまう大雪に見舞われ、2月に入ってから何度か降っています。



ということで、「オックスフォード便りその4」の写真は、雪のオックスフォードです。お店も「店員さんが出勤できないから、お休み（この理由が英国らしいですよ！大雪で支障が出ても多く英国人は「天候なら仕方ない」ですね。このあたりが線路を歩いてでも出勤してくる日本人の感覚とはかなり違います）」、道は凍ってつるつる、小学校も休校、と日常生活には様々な不便はあったものの、数百年の歴史のある建造物の上に静かに雪が降り積もっている風景は格別！



最近になって、ようやく少し寒さも緩みました。とはいえ、やはり英国の冬。暗く、そして長いです。16時位には暗くなり、朝は9時くらいまで明るくなりません。あまり早く暗くなると「早く家に帰りたい～。仕事をする気になれない」のは日本人だけでしょうか？欧州の人は、この暗さに慣れているので、普通どおりに仕事をこなしていけるのでしょうか。さて、待望の「春はいつ来るの？」これについては英国在住の人みんな「2月位から水仙やスノードロップは咲き始めるのだけど、日本のように暖かい日が出るのは5月までは・・・。」ということで、3月、4月までまだまだ暗い季節が続き、5月にいきなり「初夏」！ということらしいです。本当に長い冬です。欧州の冬の時期に、鬱になってしまう駐在員の奥様がいらっしゃるというの分かります（お仕事がある旦那さんとはもちろん、家にこもりっぱなしだと辛いものがありますよね）。



さて、そんな長い冬、暗い英国を抜け出して太陽のきらめく南欧へ！と考えるのは人間の性でしょう。「週末、思ってた南欧にふらっとお出かけ」を可能にするのが、最近の欧州の格安航空運賃！イージージェット、ライオンエア等々、英国 - スペインやイタリア間10ポンド - 70ポンドくらいまで様々な価格が提供されています。時期によって1ポンド！というのもあり、「本当にこんなに安くて大丈夫なの？」とちょっと不安。ということ

で、週末ロンドン・ガトウィック空港からスペイン・バルセロナ空港まで往復挑戦してみました（笑）。往復60ポンド（約13500円）。格安値段の正体は、徹底したサービスの排除。手続きはすべてネット、手荷物は機内持ち込みの荷物一つが原則、当然飲み物等のサービスはなし、チェックインも早く搭乗したければスピーディボーディングをプラスする等々。身軽に乗り込めば、お手軽値段で欧州各国飛びまわれますが、普通の旅行のようにスーツケースを持ち込んだり、保険をつけたりすると結構値段はいつてしまうという仕組みです。空港がメイン空港でなく外れた場所にあるのが多いというのも値段を考えると止むなしでしょうか？遅延が多い、キャンセルのリスクが高いというのも「この値段なら仕方ない」と乗客は納得しているようです（ボンからの帰路3時間遅れてオックスフォード行きの最終バスを逃して、結局高くついた経験もあります）。「ビジネスに使うには、リスクが大きそう」という感じですが、欧州の日系企業でも格安航空券を使って「3ポンドでブリュッセル - エジンバラがいけました」というのが段々増えてきているようです。飛行機の価格破壊、遅延・キャンセルのリスクも他の航空会社も大同小異と割り切り、コスト面のメリットを採用する企業は今後も増えそうですね。



同じような「びっくり！」は英国国内鉄道でもあります。英国の鉄道料金は「知っていればお得！知らなければ大損！」というのが原則（笑）。よく知られているのが「片道チケットも、往復チケットも値段がほぼ変わらない（往復を買ったほうが断然お得）」。しかし、それだけではありません。ネットで事前購入すると、本当に驚きの低価格でのチケット購入が可能。たとえば、オックスフォード ロンドンパディントン駅（1時間乗り換えなし）。いわゆる正規料金にあたる時間自由のチケットは片道大人25ポンド（約4650円）。これがなんと、National Express のサイトから購入すると（前日でも）時間帯により一人最安値4ポンド、往復8ポンド（1200円）。これだけでも「4分の一になるの？」。さらにファミリーチケット（年間26ポンド、おとな2名子供4名までの割引。窓口で申請書とお金を出すだけで簡単に購入可能）を使うと、大人2枚・子供1枚が、なんと3名全員分で往復12.6ポンド（1890円）！！（大人は一人当たり片道2.6ポンド、子供は1ポンド！大人往復5ポンド強はロンドン地下鉄1日オフピークチケットより安いです。笑）。ネットやファミリーカードを使わないで、普通に窓口で購入するのがバカバカしくなる値段の違いですが、親切に教えてもらうのでなく、メリットもデメリットも自分で調べて「自己責任」というのが欧州スタイルですね。（つづく）

前回の「オックスフォード便り（その3）」は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/253/mag_253.pdf

編集後記

この一年間に、若い人との多くの出会いがありました。塩ビ管のリサイクルに興味を持った学生、ロンドンで勉強している若いデザイナー、塩害の暴露実験をテーマに取り上げている研究生、塩ビの滑り止めをモチーフに考えている美術大学の講師など、色々な方面の方々です。塩ビ忌避の時代を知らない若者が素直に塩ビの良さに気づいて頂けたことが何よりの支えになっています。これからも、このメルマガやホームページにアクセスして頂いた方との出会いを大切に、楽しい縁創りの輪を広げていこうと思っています。(円行)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp
